

# 28 有田文様の道

あり た もん よう みち

佐賀県有田町



## データボード<sup>28</sup>

- ① 佐賀県有田町字東ノ前、浦谷、高山下、戸杓
- ② 延長450m、幅員16m
- ④ 磁器(陶板、タイル、オブジェ)、インターロッキングブロック、石(地場産、旧橋材)など
- ⑤ 有田陶器市、有田国際ファインセラミックスシンポジウム

「有田文様の道」は、日本磁器発祥の地として約四百年の歴史をもつ有田町の駅前であり、人々が焼き物の歴史と文化にふれ、楽しみながら集い、語らい、交流しあえる道として整備されたものである。整備では景観に十分配慮し、戸杓橋、新田の平橋には有田らしさを表す九種類の形の陶板九六枚を高欄の内外に貼り付け、浦谷橋の高欄体には青海波をデザインしてある。これらの橋を結ぶ歩道にも、石材や磁器タイル等の素材で作った有田文様の板を埋め込んだり、交差点の町角広場には、窯業大学の学生によって制作された陶彫や、石材の照明器などが設置されている。